

わたしたちに出来ること

3.11からもう4年あまりの歳月が過ぎた。
時の流れは速いけれど、記憶の中に永くとどめ続けることが、
わたしたちに出来ることであり、なくてはならないこと。
3.11を忘れないために、小さな灯をともし続けていきたい。

3・11に海辺で待つ

まだ帰らぬ人を待つ	まだ帰らぬ人を待つ
海辺に立って	ここ3・11の地で
沖をながめやる	じっと、
そっと水に手を入れる	そっと、静かに待つ
手をつなげるように	どこかにいる
海のどこかにいる人と	鳥や、月、太陽が知っている
あの日、どこかへ突然に	自分は水に手を入れて、
行ってしまった人と	感じるだけだ
つながるために	
波が運んでくる、あの人の	帰らぬ人を、
声とぬくもり	これ以上ふやしたくない
波が伝えてくれる	待ちたくない

戦地に人を送って

宮城県石巻市 千葉直美 団体職員52歳
3月11日付朝日新聞より



イオン “幸せの黄色いレシートキャンペーン”

平成26年度の“幸せの黄色いレシート”の合計が1,276,201円になりました。うち1%に相当する12,800円のイオンカードがいただけることになり、“りんりん茶屋”の調理器具等を購入する予定です。

会員様、イオンのお客様、“黄色いレシート”をたくさんご投函いただき本当にありがとうございました。

平成27年(2015) 4月

No.63

発行/特定非営利活動法人 りんりん
半田市岩滑高山町5丁目4番地
TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623
http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

ありがとうございます

皆さまのあたたかいご支援が
りんりんを支えています。

平成26年度賛助会員

小林 由紀 (敬称略)

～ りんりん茶屋 ～

2/2 「そば打ち教室」阿久比めんSクラブ …………… 15名
2/13 「岩滑高山朗々(老々)見守り」話し合い …………… 17名

～ ヘルパー研修会 ～

1月 “鬱を知ろう” …………… 40名
2月 “障がいを持つ方への理解” …………… 42名
3月 26年度振り返り・27年度に向けて …………… 50名



2月 ヘルパー研修

多世代交流事業

	1月	2月	3月
生き活きサロン	175名	148名	169名
さをり織り	42名	35名	35名
絵手紙	8名	17名	8名

(延べ利用人数)

会員数

賛助会員	利用会員	協力会員	合計
51名	67名	117名	235名

(H27/3月末現在)

特定非営利活動法人 りんりん



彼女からのメッセージ

桜の花とともに、入学・進学のうれしい便りが届きました。これからの新生活にわくわくされていることでしょう。新しい門出を迎えたみなさんにどうぞ素敵な出逢いがたくさんありますように…。

りんりんは、たすけあいや介護保険事業、自立支援事業、子育て支援事業などでヘルパー派遣を続けていますが、その中でたくさんのメッセージをもらいます。「生活のリズムができた」「ヘルパーさんと初



めてナゴヤドームまで行ったんだよ」「あんたが来てくれると、なんだか元気になるわ」…うれしい限りです。そして毎日を当たり前で暮らせること、ありがたさも教えてもらいます。

今春のはじめに、つらい出来事がありました。

以前りんりんを利用されていた方ですが、その方は自分からは強く要求はしないし、ダメと言われたら反発もしない方でした。その方の生活を支える為に行政の担当部署、事業所も複数関わり連携していたはずだったのですが、それぞれが役割分担をしていたつもりが、分担しすぎて本当は連携ができていなかったのではないかと思ひ知る結果になりました。専門職としての過信はなかったか？そこは自分の仕事ではないからと消極的ではなかったか？専門職という名札を下げていながら上から目線ではなかったか？「その人らしい生活を続ける」ってどういうことなのか、改めて考えさせられます。

この彼女からのメッセージを無駄にしないように、りんりんの理念の原点に戻る機会ととらえ、活動を続けていきます。

代表 下村 裕子

こんにちは

“新美南吉の かたりべ”

鈴木 秀子さん(89歳)



「新美先生は美人がお好きだったわよ」

安城高等女学校で4年間、英語、国語を担当の新美南吉から学んだ鈴木さんは、笑いながら言う。この「教え子」というご縁から今も南吉関連の行事があるときには「数少ない南吉のかたりべ」として活躍されている。

日本福祉大学半田キャンパスのすぐ近くにお住まいの鈴木さんは、ふくよかな容姿とおっとりした対応からは想像もつかないほど、数奇な人生を経て来られた。

お生まれは大連。当時お父さんが通信省にお勤めで居られたから。小学校も4回、長春、大連、安東、奉天と変わったと、80年も昔の地名をよどみなく口にされる。この後、蒲郡に住む祖父の家に預けられ、安城の女学校へ。卒業後、実母に会いたい一心からその母が居る中国へ就職を決め、単身張家港へ渡る。苦勞して行ったものの母には会えず、そのうちに終戦となり、さまざまな困難を乗り越えて帰国。

やがてすすめられるままに蒲郡で結婚した。後に、東京でも6年間暮らしたが、ご主人が事故で他界してしまった。子供たちを連れて蒲郡に戻り、名古屋で勤めていた時、二度目の夫となる鈴木氏から求婚され、5年間待ってくれたらと返事をして、5年後に結婚したとのこと。この「お返事」がいかにも鈴木さんらしい身の処し方である。

めまぐるしい生活環境の変化の中で、鈴木さんは海外旅行にもたびたび行かれたし、万葉集の勉強にも長期間励まれた。また、ご自身も短歌を詠まれた。

今はりんりんのデイサービスに通うことが楽しいと言われ「りんりんはみなさんが温かくていいわね」とも。

決して平坦ではなかった人生を振り返って鈴木さんは、「いろいろありましたけど、わたしはまったく何も後悔なんかしていませんよ。」といつものおだやかなお顔で、はっきりと言われた。

～フィリピンからの研修生～ 介護を学びに

マリア・ベルナット・アデリアさんは、フィリピンのミンダナオ国際大学の学生です。大阪に約1年半ほど滞在経験があります。ゆくゆくは、日本で介護の仕事に就くことを夢見ています。

人手不足が深刻な介護現場での外国人労働力の活用に向けた、京都女子大の山田健司准教授の研究の一環。国家資格がなくても可能な家事支援をどの程度できるかを見極めるための研究にりんりんが協力した。約1週間の研修期間に、デイサービスや在宅での介護を体験しました。日本語はたどたどしいマリアさんですが、持ち前のやさしさと笑顔で、利用者さまと親しく交わっていました。

りんりんでの介護体験で印象に残ったことをたずねたところ、「一人一人の利用者さまへの心配りが細やかで、思いやりにあふれていたところです。」とこたえてくれました。



寺子屋「やなべっ子ハウス」 スーパーボール、スライム作り

3月27日岩滑公民館で岩滑小学校区の小学生を対象に作り方教室が開かれました。27名の小学生をお世話するのは大学生を含む6人の大人たちです。どちらのおもちゃも子どもたちにとって馴染みのものなので、先生の説明を聞きながら興味しんしん。「キャ〜くつついた」「丸くならない!」「小さすぎ」「こぼした!」「でれでれ〜」と大騒ぎしながらそれぞれなりの作品を作り上げました。終わった後は‘たこせん’を食べたり、‘自分で作った綿菓子’を食べたりして、春休みの1日を楽しみました。出来栄はともかく、自分で作り上げた充実感に子どもたちの表情は晴れ晴れとしていました。



りんごクラブ

私は、りんごクラブに6年間お世話になりました。りんごクラブができて卒業までいたのは、私が初めてだと思います。



私は、みんなと保育園がちがうので入学式はとていやでした。りんごクラブには4月1日から来ていたので、友達ができてとてもよかったです。

りんごクラブでは、夏休みに学校のプールをかりて泳ぐことができます。そのおかげで私は水泳が得意になりました。りんごクラブの部屋の



さをり織り

前にはデイサービスがあるので、介護のことも学ぶことができました。

中学ではりんごクラブで学んだ『低学年に優しく』など人に気を配れる人になりたいと思います。

新中1 盛林 納那

りんりん茶屋「そば打ち教室」

“阿久比めん’Sクラブ”

2月2日りんりん茶屋にて阿久比“めん’Sクラブ”の5人の方に来ていただき「そば打ち教室」が開催されました。

まずは、そば粉を混ぜます。まんべんなく粉を混ぜあわせるのは、とても根気のいる作業です。つぎにこねます。こねることはとても力がいらいます。“めん’Sクラブ”の男性たちはらくらくこねています。それからがまたまた大変!今度は、薄くち



ぎれないように延ばしてきれいに折り重ねます。あとは切るだけ。なかなか同じくらいの幅にはなりません。その後、出来たてのそばをゆでてもらい美味し



くいただきました。ざるそばだけと思っていたらかけそばまで出てきてラッキーでした!

参加したみなさんは初めから終わりまで悪戦苦闘でしたが笑い声のたえないそば打ち体験でした。